

地域住宅生産者グループ

(社)福島県建築士会福島支部

地域型復興住宅の名称	対象となる地域
“うつくしま” ふくしまの家	福島県全域

グループの特徴とメッセージ

(社)福島県建築士会福島支部は会員数 327 名、協賛企業 20 社で構成されています。会員は全て建築士で、主に設計事務所、建設会社・工務店・大工、内装工事会社、設備工事会社、電気工事会社、建材販売会社等で構成されており、住宅建設に必要な企業は一通りそろっています。今回はこれに各会員企業が通常業務の取引先等として連携している林業・木材関係事業者、宅建業者、ファイナンシャルプランナー、司法書士、保険会社等を連携会社として復興住宅の供給にあたっていきますので、窓口ひとつでワンストップサービスが可能となる多様な専門家との連携体制が整っています。また被災した企業・風評被害に苦しむ企業等とも積極的に連携しています。

グループの基本情報

グループ名称	(社)福島県建築士会福島支部
所在地	〒960-8111、福島市五老内町2-10 アスカビル 1 F
結成年月	1951 年 8 月
グループ形態	社団法人
主たる業態	設計
グループ構成 ※各事業者名 は別紙	合計 42 社 原木供給 : 3 社 製材 : 2 社 建材流通 : 4 社 プレカット : 2 社 設計 : 8 社 施工 : 9 社 その他 : 14 社
代表者名	(社)福島県建築士会福島支部 支部長 阿部良樹 (西信建築設計事務所)
主な受賞歴・ 活動内容等	・平成 24 年 ふくしまの家復興住宅供給システムプロポーザル入選

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	木造軸組工法
価格帯	1,100~1,300 万円
価格の基準面積	82.8 m ²
価格に含まない項目	屋外工事費、外構工事費、諸手続費

*価格は、地域・プラン、仕様によって異なります。
詳しくはお問い合わせください。

グループ全体の施工実績（年間）

建設戸数*（木造戸建）	56 戸
うち地域材活用の住宅	56 戸
うち長期優良住宅	1 戸
グループとしての 施工実績	なし
グループとしての地域 型住宅の受注可能戸数	100 戸
自由記入欄 （上記以外の実績等）	年間住宅増改築 241 棟、年間住宅設計棟数 71 棟

*参画する施工業者の建設戸数の合計

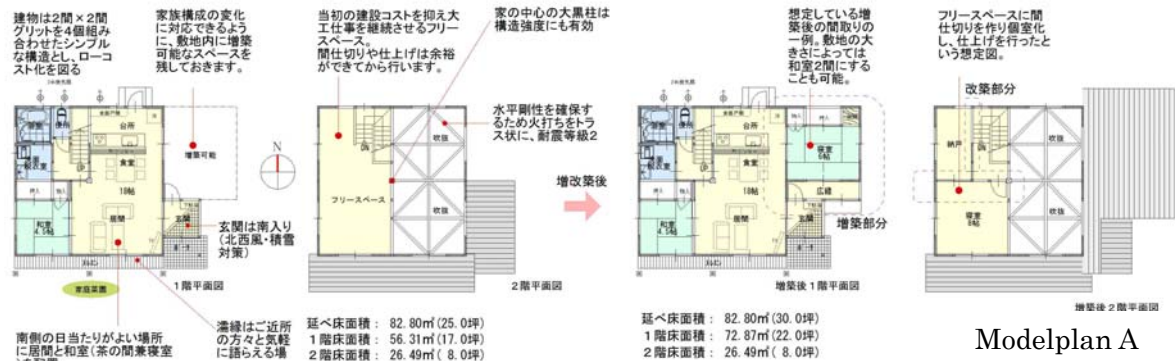
連絡窓口

担当者名	和田 聡史	メール	satoshi_wada@hotmail.com
電話番号	024-536-0354	F A X	024-536-0358
ホームページ			
自由記入欄			

地域型復興住宅

“うつくしま” ふくしまの家

地域型復興住宅のイメージと特徴



“うつくしま” ふくしまの家

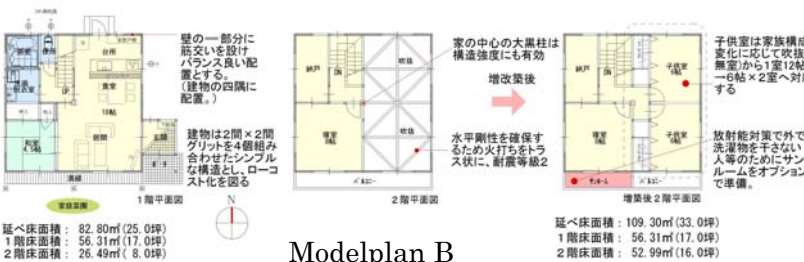
「う」うみ育てのしやすい家：シンプルだが無駄がなく、同じコストでも最大限有効な広さがとれる、また家族構成の変化に伴い増築・改築可能なプランとします。

「つ」つながりのある家（地域コミュニティ）：居間・茶の間・濡れ縁や庭・家庭菜園などのセミパブリックなスペースを有効に配置し、家族や地域の人と語り合うつながりのある家とします。

「く」くらしやすい家（地域の気候）：地域の気候風土に配慮し、深い庇のデザイン、積雪・凍結・季節風に配慮した家とします（南入りの玄関など）。

「し」しぜんを取り入れた家（環境対応）：光・風を十分取り込めるようなつくりとし、中間期には冷暖房が不要となるような家づくりをします。また太陽光発電を将来屋根に載せられるような屋根の形状としておきます。次世代省エネルギー性能表示等級4を想定しています。

「ま」まちづくりの核になる家（災害に強いまち）：集落がひとまとまりの景観となっていて、建物によって地域の連帯感もてる、そしていざというときは住民同士が協力して防災に取り組めるようなまちづくりを目指します。



代表的事例の概要

構造	木造在来軸組工法	床面積	1階 56.31 m ² 2階 26.49 m ²
設計	松本建築設計事務所	施工	(株) 黒澤工務店
施工費	1,320 万円 (税別)	備考	設計費別

設計方法や地域材活用に関する特徴

平面は4間×4間の中に最大限の有効面積を確保できるプランとしました。また家族構成の変化に応じて増改築できるようなスペースを準備してあるのが特徴です。福島県産材を構造材や外装・内装にふんだんに使用した、田園風景になじむ、伝統的な真壁構造風のふくしまらしい外観デザインとしました。「温かみ」や「ぬくもり」、「肌触り」や「香り」などにより、子どもからお年寄りまで安全で心と体にやすらぎのある環境を作ります。

主に活用している地域材について

地域材の名称	福島県産材
樹種	杉、
産地	福島県
認証制度等	—
主に取扱う材種	無垢材、
主に取扱う部材	柱材、梁材、外壁材、内装材
自由記入欄	地域型復興住宅では構造材に地域材を活用した住宅を供給します。

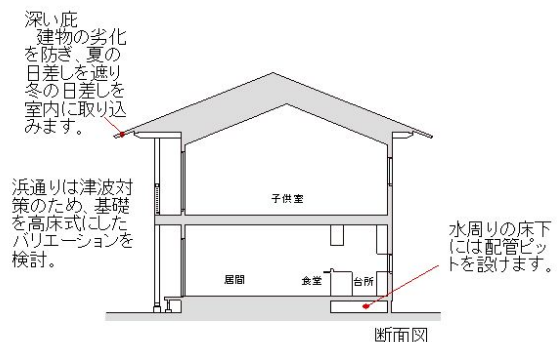
性能・仕様および施工方法等に関する特徴

■性能 性能評価の等級設定を行います。想定している性能は、構造の安定耐震等級2、火災時の安全等級1、劣化の軽減等級2、維持管理更新への配慮等級2、音熱環境省エネルギー対策等級4、空気環境等級3、高齢者への配慮等級は家族構成に応じて設定する等です。

■仕様 性能表示等級4（ペアガラス・断熱サッシ・高性能グラスウール・LED照明の採用等で対応）

■再生可能エネルギーの活用

再生可能エネルギーの活用方法として太陽光発電を将来屋根に載せられるような準備として乗せやすい屋根形状としておく、配管を準備しておく等の措置をしておきます。さらに何棟かまとまった団地の場合、地中熱利用の共同システムを検討するなど、集落単位での設備計画もしていきます。



■構法

田園風景になじむ伝統的な真壁構造風の外観デザインとし、地元の大工が施工しやすい伝統構法を用います。担当する大工はできるだけ家が近くの人を選び、原発事故などで馴れない土地に避難してきて不安を抱える人が、新たな生活を始めるにあたって、住宅建築以外にも地域の風習・行事などに関しても相談できる人として関わられるようにします。夏にはわらじ祭りに参加します。

■品質確保

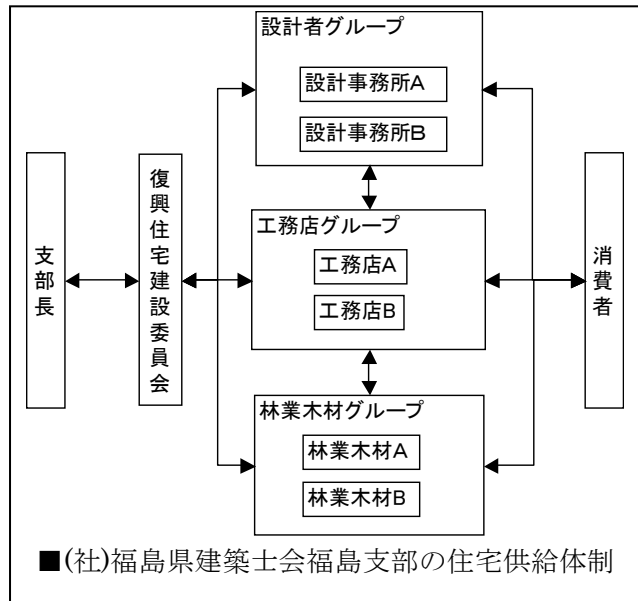
復興住宅建設委員会が調整し第三者の担当者を選び、第三者的立場から実際に設計・施工にあたる担当会社を監督します。具体的には工事の段階で2回程度検査を行います。

地域住宅生産者グループ

(社)福島県建築士会福島支部

地域型復興住宅の生産供給や流通資材の調達に関する体制

まず建築主から事務局等に復興住宅再建の問い合わせ等があった場合、事務局にて受付をし、担当委員会から連絡をさせるようにします。次に担当委員会が代表工務店・代表設計事務所、代表林業・木材関係事業者と調整し、担当設計者及び担当施工者及び木材供給者を選定します。施工者は、選定された木材供給者から木材の供給を受け、施工を行います。また、木材以外の他の住設機器・資材も、連携企業グループの中から供給します。設計と施工は施主との直接契約ですが、品質確保のために建築士会からも第三者監理を2回程度行い、設計者・施工者を監督します。



施主からの相談体制および維持管理（アフターサービス）の体制・取組み

建築士会とは建築士法の規定により都道府県ごとに設立されている公益法人で、地域社会に貢献し安全で安心な住まいづくりを行っています。(社)福島県建築士会福島支部は基本的に解散することがなく存続していくため、長期的・組織的に復興住宅とその入居者を支援していくことが可能です。役員等が改選になる場合は担当者を引き継ぎ担当委員会で対応を協議していきます。基本的には担当した会社が維持管理や修繕に対応します。住宅履歴情報(竣工図・工事写真・CADデータ・確認申請書写し)等の提出を義務付け事務局で保管し、何らかの理由で担当した会社が維持管理や修繕にあたれない場合は担当委員会が窓口となり修繕等を引き継ぐ企業を紹介するなどして対応します。品質確保のため担当委員会が調整し第三者の担当者を選び、第三者的立場から実際に設計・施工にあたる担当会社を監督します。具体的には工事の段階で2回程度検査を行います。また世代交代に備えて若手や女性に経験の機会を与え、技術の継承を行い後継者の育成を並行して行い将来にわたって地域で住宅の維持ができる体制を作っていきます。